（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	就労準備型芳泉（クラス１：就労準備型芳泉）			
○保護者評価実施期間	令和　7　年　11　月　14　日	～	令和　7　年　12　月　20　日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	32人	（回答者数）	23人
○従業者評価実施期間	令和　7　年　11　月　14　日	～	令和　7　年　12　月　20　日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	9人	（回答者数）	6人
○事業者向け自己評価表作成日	令和　8　年　3　月　12　日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小学校の高学年～高校生までの思春期・青年期の児童を主な対象としており、年齢や発達段階に応じた支援を行っていることが大きな強みです。	進学や就職など、将来のライフステージを見据え、保護者や学校、関係機関と連携しながら、一人ひとりの成長を継続的に支援しています。	活動の内容や取り組み方について、複数の選択肢の中から自分で選べるような工夫をしてまいります。また、自分の意思を伝え、選択する経験を重ねることで、自主性や自己理解につなげてまいります。
2	遊びや余暇活動、SSTや職業体験や地域活動などを通じて、社会参加や自立に向けた力を育んでいます。	将来の進路や就職、自律した生活を見据えながら、対人関係や感情のコントロール、自己理解を深めていくことを重点に行っています。	例えば、グループ活動で、司会、準備、片づけ、記録などの役割を設け、役割を果たす経験を通して、責任感や協力する力を育んでまいります。またSSTや日々の関りの中で、相手の気持ちを考えること、意見お伝え方、折り合いのつけ方なを具体的に学べるよう支援してまいります。
3	年齢に合った地域参加の機会を設定し、学校や事業所以外の人との関わりを経験し、地域の中で安心して過ごせる場所や関係を増やすことに力を入れています。	地域の福祉まつりに参加し、物販を通して働く体験（商品の制作、商品の陳列、接客、会計、袋詰め、在庫管理等）実際の仕事に近い経験を通して「働くこと」のイメージを具体的に持つ経験をしました。	それ以外にも、ドローン体験、職場見学・体験、外出行事（趣味活動、買い物練習、行く前にパソコンで調べる等）様々な活動を取り入れています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	小学生と中高生では発達段階や将来に向けて必要となる力が異なりますが、同じ部屋で支援をしているため、線引きが難しい現状があります。	部屋分けをし、テーマ別の支援を行いたいが、環境的に分けることが難しいことが要因として挙げられます。	小学生には基本的な生活習慣や対人関係の基礎づくりを、中高生には自己理解や進路、自立に向けた実践的な活動を取り入れ、より子ども一人ひとりの成長につながる支援が行えるよう、環境設定を工夫していきたいです。
2	保護者の対応力の向上を目的としたペアレント･トレーニングについては、現時点では体系的な実施に至っていません。	保護者のニーズや、参加しやすい方法を把握できていないこと、また職員の知識の向上が図れていないことも要因として考えられます。	送迎時の助言や個別面談などを通して、子どもへの関わり方や行動理解について具体的に伝える機会を増やしていく必要があると考えます。
3	以前は事業所の行事に地域住民を招待していましたが、声かけをしても参加する方がみえなくなりました。	高齢化が進み、参加が難しくなったことが要因として挙げられます。	地域のイベントや町内会行事への参加、地域施設の活用、地域への情報発信や福祉系学生の実習受け入れ、施設での作品展開催等、地域に開かれた事業運営の工夫を考えてまいります。